

## 期待インフレ率の上昇からみる米ドル相場

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

来月初旬にFOMC(米連邦公開市場委員会)が開催されますが、景気を浮揚させるためにFRB(米連邦準備制度理事会)が更に追加の金融緩和を行なうとの観測から、今後金利がさらに低下するとの見方が広がり、為替市場において、米ドル安が進行しています。また、FRBが12日に公表した9月のFOMC議事の要旨で、追加的な金融緩和の手段として米長期国債の追加購入に加え、インフレ期待や経済成長率が高まるまで緩和を継続するなどの手段について議論していたことが明らかとなりました。

これを受け、市場では、金融緩和への期待とともに、その緩和が長期に渡り継続されるとの思惑が広がり、過剰流動性への期待から商品や資源国通貨を買う動きが強まっていることも、米ドル安に拍車をかけているとみられます。

市場では、来月開催のFOMCを先取りする形で、足元、金利の一段の低下と米ドル安が進んでいますが、市場の「期待インフレ率(下図)」は反対に上昇しており、FRBによる金融緩和策の継続が将来的にはインフレを引き起こすとの見方ができると捉えることもできます。また、一般に、インフレ期待の高まりは、将来の金利上昇につながる可能性があることを考えると、現在、インフレ期待が高まる中進んでいる、米金利の低下傾向や米ドルの独歩安は、やや行き過ぎと見ることもできるのではないのでしょうか。

なお、今後、期待インフレ率は米金利の一段の低下や、緩和的金融政策の長期化から低下する可能性があるものの、11月2・3日開催予定のFOMCに向けて、市場は、期待や思惑などで大きくふらされる展開になるとみられます。

米国の期待インフレ率と円/米ドル相場の推移  
2009年9月30日～2010年10月14日

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。